



事業名

ジェンダーなど多様性をテーマにした絵本づくりプロジェクト ～子どもたち一人一人の未来につなぐ～



豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略

2021年度～2030年度

手段1 市民にジェンダーギャップ解消の必要性が知られている

- ジェンダーギャップ解消の必要性を学び、特に子どもとその保護者に関心が高まっている市民が増えている
- 多世代・多様な市民が、ジェンダーギャップ解消の意義やメリットを語っている
- 市民意識にジェンダー平等を定着させ、ジェンダーギャップ解消の必要性が意思の表れの中に浸透している

手段4 家庭において男女が家事責任（世帯収入）とケア責任（家事・育児・介護等）を分かち合っている

- 家事・育児・介護等の負担や意識が分かれている
- スキルを磨いて家事・育児・介護等に主体的に関わる男性が増えている
- 家事・育児・介護等に担う役割や役割分担が明確化されている

手段2 地域において男女が共に意思決定・方針決定に参画している

- 多世代・多様な市民によるコミュニケーションが活発に行われている
- 地域活動に参加しリーダーシップを発揮する女性や若者が増えている
- 女性や若者の声や考えが政策決定に反映されている

手段5 自分のありたい姿に向かって、経済的に自立し、いきいきと暮らす女性が増えている

- 社会課題に向けてチャレンジする女性が増えている
- まちのあちこちで女性リーダーのつながりが生まれている
- 経済的に自立するための制度や体制が構築され、活用する女性が増えている

上位目的
この戦略において5～10年程度で実現したい姿

固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習が見直され、お互いを尊重し支え合いながら、いきいきと暮らしている

手段3 女性も男性も働きやすく働きがいのある事業所が増えている

- 経営者がジェンダーギャップ解消に向けてリーダーシップを発揮している
- 先進的な事例やノウハウを学業において企業に取り組み事例が共有されている
- 性別に関わらずフェアな評価により活躍の場が広がっている
- 性別に関わらず家事、育児、介護のための休暇等の取得が進んでいる

手段6 子どもたちがジェンダーギャップ解消の必要性を自分ごととして捉え、行動する人が増えている

- 保育園・こども園・幼稚園・学校でジェンダー平等を学んだ活動や研修が行われている
- 子どもたちが性別にとらわれず自分のありたい姿を語り、家庭に向けて行っている

戦略目的
3年程度で達成したい姿

ジェンダーギャップ解消の必要性を自分ごととして捉え、行動する人が増えている

【豊岡市の位置】



取組の概要

豊岡市では、2021年3月に「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」を策定し、職場、家庭、地域、学校など、まち全体のジェンダーギャップの解消に向けた取組みを進めています。これまで、女性が働きたい事業所を増やし、女性に選ばれるまちを目指した職場でのワークイノベーションの推進や、地域や学校等の対象ごとに研修会やワークショップを活発に行ってきました。

子どものころからのジェンダー教育・多様性教育はとても重要であることから、2023年度には、ふるさと納税「ガバメントクラウドファンディング」を活用し、子どもを主人公として、日常の家庭での様子や、こども園での活動の様子を通して、ジェンダーや多様性について考えるオリジナル絵本を制作し、子どもたちとの対話に活用する新たなチャレンジを開始しました。

ジェンダーギャップの解消へ

なぜ、若者が帰ってこないのか？ (入って)



男女を問わず、若者が地方を去り大都市へと流れる背景に、「社会的・経済的・文化的に豊かな大都市と貧しい地方」という強いイメージがあることが指摘されています。

とりわけ豊岡が若い女性たちに選ばれていないのは、男性中心の社会であってジェンダーギャップの解消が進んでいないからだと考えています。

女性が女性であるというだけで、補助的役割のみに甘んじ、能力を磨き、発揮する機会もないとすると、①社会的損失、②経済的(企業業績・地域経済)損失、③公正さに欠けると言わざるをえません。

市で行った調査結果から、ジェンダーギャップの背景には、無意識の偏見や思い込み、固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習があることが明らかになっており、多面的に様々な切り口で取組を進めています。

絵本づくりプロジェクト



子どものころからのジェンダー教育・多様性教育はとても重要であることから、2023年度に、豊岡のオリジナル絵本を制作し、子どもたちとの対話に活用する取組を開始しました。

日々、子どもたちと接する保育者の皆さんが参画し、豊岡市但東町出身の絵本作家羽尻利門さんや、専門家の方に支援いただきながら制作しています。

絵本を通じて、読み手となる大人がジェンダーや多様性について理解を深めることで、ジェンダー視点や多様性に配慮した保育や教育の実践に役立てられると期待しています。

また、子どもたちがジェンダーや多様性について考えることを通して、自己肯定感を高め、他者を理解し、違いを認め合うとともに、性別にかかわらず、自分の夢を描き、自分らしく未来を切り開いていくことの大切さを知ることにつながることも願っています。

誰もが自分らしくいきいきと



制作したオリジナル絵本は、保育や教育の現場や、読み聞かせを通し、子どもと親、子どもと祖父母との対話等に活用されていくでしょう。

また、2025年に開催される大阪・関西万博の際は、この絵本の紹介をはじめ、豊岡市がこれまで進めてきたジェンダーギャップ解消とまちづくりの取組を発表する機会が設けられることを期待しています。

ジェンダーギャップの解消は未来に向けた取組です。過去の社会のありようや、人々の生き方を否定するものではなく、産業構造や人口構成の急激な変化に対応しながら、全ての人にとって生きやすい社会、持続可能な地域社会をつくるための取組であることを、今後も、より多くの方に知っていただきたいと願っています。



問い合わせ先:兵庫県豊岡市くらし創造部ジェンダーギャップ対策室

担当者:上田・原田

Mail:w-innv@city.toyooka.lg.jp

URL:

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/1007000/1008845>

360°
EXPO

360°EXPO拡張マップ

兵庫県豊岡市

ジェンダーなど多様性をテーマにした絵本づくりプロジェクト